

## 別紙様式

## 平成29年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

|                                    |  |
|------------------------------------|--|
| 事業の名称                              | グローバルマインドの育成を目指して、障害者の権利に関する条約批准による通常学級、特別支援学級におけるインクルーシブ教育システム構築に向けての合理的配慮についての実践事例研究   |
| 事業実施代表者名                           | 附属札幌中 副校長 三浦 英悟  |
| 実施附属学校名                            | 附属札幌小・中学校  |
| 事業内容<br>(実施内容について、<br>1,000字程度で記述) | <p>障害者の権利に関する条約「第二十四条 教育」においては、教育についての障害者の権利を認め、この権利を実現するため、障害者を包容する教育制度等を確保することとし、その権利の実現に当たり確保するものの一つとして、「個人に必要とされる合理的配慮が提供されること。」を位置付けている。そして、その合理的配慮を「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整」とし、小・中学校においては①教育、支援員の確保②施設・設備の整備③個別の教育支援計画や個別の指導計画に対応した柔軟な教育課程の編成や教材等の整備④先進校の実践事例の情報収集し、教員の研修に役立てる。</p> <p>附属札幌小・中学校ではグローバルマインド育成のための小中一貫の教育課程のあり方についての研究を進めており、その一つとしてインクルーシブ教育の推進に取り組んでいる。学校現場では、不登校児童生徒の増加や発達障害を抱えた児童生徒が多数在籍しており、その対応に苦慮する学校が多く、対応策について実践事例へのニーズが高まっている。このことについては本校についても例外ではなく、より具体的に、実践的に取組を進める必要がある。今年度は、これらのことを踏まえ、上記「合理的配慮」の中の特に①③④について実践、研究を進めることにした。</p> <p>今年度取り組んだ内容は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 個別指導及び少人数指導、教育相談体制の整備。<br/>特に集団生活や他者とのコミュニケーションが苦手な教室に入ることでできない児童生徒への少人数指導、保護者への支援も含めた教育相談を重点とする。</li> <li>② 通常学級在籍の教育的ニーズのある児童生徒の実態把握。<br/>各種調査、担任への聞き取り、実際の授業参観を実施し、当該児童の状況を調査しコーディネーターが窓口となり実態把握する。</li> <li>③ 通常学級と特別支援学級の交流教育実施計画の立案と実施。<br/>年度始めと学期毎に通常学級と特学担任が打合せし、交流計画及び共同学習の実施計画を立案する。</li> <li>④ 小学校の教科学習、中学校の学校行事における交流教育の実施と検証。小中それぞれに通常・特学担任が連携して実践・検証を進める。</li> <li>⑤ 先進的な取組についての調査研究の実施。<br/>小・中・ふじのめ学級の代表が、グローバルマインド育成、インクルーシブ教育実践、カリキュラムマネジメントの実践を先進的に行っている学校や研究会に参加し、実践の参考とする。</li> </ol> |

|   |   |
|---|---|
|   | <p>新学習指導要領の改訂を推進した中央教育審議会教育課程部会における議論の動向を見据えながら、中学校は『自己を拓き、共創する生徒の育成』を主題とする研究に取り組んできた。特に昨年度の研究では、小中における「資質・能力」の育成のために、単元全体を見通した単元計画、小中の各教科における接続を意識して、資質・能力を洗い出した。その結果、連続性を踏まえた授業構想の工夫、生徒の実態に即して授業計画を改善することの必要性が明らかになった。これを踏まえて、今年度は、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、生徒たちの学びの経験が有機的に関連付いていくための全体計画について提案いたします。この提案を踏まえて、文部科学省教科調査官、指導主事、共同研究者の先生方のお考えを伺いながら、生徒たちの思考の広がりや教科を通して、また教科間の連携を総合的な学習を通してどのように受け止めていけばよいか進めていく。</p>  |
| <p>成果と課題<br/>(活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 個別指導の必要な児童生徒に対して、管理職・担任・副担任・養護教諭をはじめ、年度初めの情報交流会を通して、児童生徒の実態に合わせた支援を実施することができた。</li> <li>② 定期的に「学びの支援委員会」を実施して、それぞれの立場でできることを話し合い、効果的な支援ができています。しかし、対象の児童生徒の不登校傾向については、一進一退の状況があるため、学校・家庭・カウンセラーとの連携をより密にした支援の計画・実施をしていく必要がある。</li> <li>③ 昨年度までの取組と同様に、特別支援学級との連携を図り、インクルーシブ教育を深めることができた。小学校の運動会においては、特別支援級単独の競技を廃止し、すべての競技を通常学級と共に行うなど、行事における合理的配慮の可能性を広げることができた。中学校においては、合唱コンクールでの賞に関して、通常学級と同じ賞で対応した。その結果、銀賞を受賞することができた。</li> <li>④ 今年度もふじのめ学級より1名UD研究会へ参加し、本校のインクルーシブ教育の推進に参考とすることができた。また、小中一貫にかかわる学校教育の研究大会に参加し、実践を深めることができた。</li> </ol> |

|   |   |
|---|---|
| <p>今後の発展性<br/>(残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>         | <p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務文章に、小中一貫教育推進プロジェクトを位置付け実践に取り組み、成果を上げてきた。今後は、計画にある平成30年度末の完成に向け、さらに組織的、一体的に取り組むことができるようにしていく。</li> <li>・合理的配慮についての研究を深めていくための研修の充実を図る。大学教員との連携は勿論、実際の現場を多く経験している講師など、広い観点から研修することができるように計画を進めていく。</li> </ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫の教育課程作成に向け、管理職を含め研究推進委員を選出し中学校としての組織を編成した。また、小学校、ふじのめ学級の研究推進委員との合同会議を開催し方向性の確認をした。今後の課題は、現在推進している本校研究(3年研究の2年目)と小中一貫教育研究の整合性について検討が必要である。</li> <li>・特別支援学級の教科の授業に中学校教師が出前授業をしている。その成果を研究大会で発表した。今後、通常学級の生徒と特別支援学級の生徒と一緒に教科の授業を進めていくことの計画づくり。</li> </ul> <p>【ふじのめ学級】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中・ふじのめの連携をいっそう深めるために、行事や日常の交流をはじめ、教科枠の拡大と共同学習の推進に向けた年間計画と授業内容を検討し、継続した授業実践を取り組んでいく。</li> <li>・グローバルマインド育成のために、小・中・ふじのめの子どもたちの実態を把握し共通理解のもと、教育課程における具体的な内容の検討と、連携に向けた課題を解決するための方策等について研修を深めていく。</li> </ul> |
| <p>事業の公表状況<br/>(事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校、中学校、ふじのめ学級それぞれの研究大会において発表。</li> <li>・小学校冬季授業研紀要に掲載(育むべき資質・能力)</li> <li>・附属札幌小・中学校、ふじのめ学級のHP <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/6 命と安全を守る授業 5/25 給食交流 6/10 心に栄養を!</li> <li>6/14 小中合同避難訓練 7/15 海外からのお客様</li> <li>10/13 中学生との交流授業</li> </ul> </li> <li>・12/22 ふじのめクリスマス会</li> </ul>   |

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。